

本日、戦没者の方々の慰霊祭が厳肅に執り行われるにあたり、道半ばにして意念の中に亡くなられた御霊に、謹んで哀悼の誠を捧げます。

私は戦後の昭和三十七年に生まれ、戦争を知らない世代ですが、私の淡路出身の祖母は空襲で被弾し命を落としました。その時の様子を祖父や両親から何度となく聞き、二度と戦争を起してはならないとの思いをもって育ち、政治の道を志した次第です。

わが国は唯一の原爆被爆国であり、その経験を世界に伝え、戦争のない社会を實現しなければなりません。そして、日本の国だけが平和であればいいという「一國平和主義」ではなく、わが国がリーダーシップをとって、平和を構築するために、積極的に国際社会の中で行動するべきだと思います。

私はこの度、外務大臣政務官を拝命し、外交の第一線で、国の代表として働くこととなり、責任の重さを痛感し、改めて、世界の平和と日本の国益の實現にむけて全力で取り組むことを、ここにお誓い申し上げます。

戦没者の方々の御霊が安らかに眠られることを心からお祈りし、最後となりましたが、本日も参会の皆様方のますますのご健勝、ご多幸をこの祈念申し上げます。私の挨拶とさせていただきます。

平成二十年八月十五日

外務大臣政務官

衆議院議員

西村 康稔